

M28a

## 2010年6月20日のフィラメント噴出の多点観測

大山 真満（滋賀大学）、尾岸 真彩美、丸山 ひかり、澤田 真平（茨城大学）、下条 圭美（国立天文台）

2010年6月20日にフィラメント噴出を伴うフレアが発生し、地球側からは野辺山電波ヘリオグラフ、SDO衛星搭載の Atmospheric Imaging Assembly (AIA)、太陽を中心として地球公転軌道後方約70度から STEREO-B衛星搭載の Sun Earth Connection Coronal and Heliospheric Investigation (SECCHI) で観測された。

STEREO-B衛星の195Å, 304Åの観測では太陽面中心の少し北東側から、南の方向にフィラメントの噴出が起き、その後、ツーリボンフレアが観測されている。フィラメント噴出の途中から観測された304Åではツーリボンフレアの北側と南側それぞれに円弧のような形をした噴出フィラメントが見られ、北側の噴出フィラメントは西側の足元を中心に、円弧の凸側を先端として反時計周りに回転しながら、南側に伸びている。一方、ツーリボンから南側に位置している噴出フィラメントは南半球に位置し、東側の足元を中心に円弧の凹側を先端として時計周りに回転しながら、全体的に南方向に飛んでいる。地球側から捉えたSDO衛星の304Å画像では、このフィラメント噴出現象はアーチ状のプロミネンス（フィラメント）が噴出し、時間とともに南北半球をまたがるように広がりながら噴出していることが分かる。太陽面上の観測では異なる2つの構造が噴出しているように見えた南北のフィラメントは、リム付近の観測で1つの噴出プロミネンスであることが分かった。さらに、SDO衛星の195Åの観測では、南側の噴出フィラメントの前方を（画像上）約100km/sの速さでwaveのような構造が南向きに飛んでいるのが分かった。本講演では、これらの内容を含んだ解析結果について報告する。